

福岡市中央区3歳児の体位と高度肥満の1男児例

(分担研究：小児期の成人病危険因子の実態把握に関する研究)

本田 恵 河野 斉

要約：福岡市中央区在住の3歳0カ月から同1カ月までの男児319例，女児318例の身長，体重，肥満度，カウプ指数，ローレル指数を算定した。肥満度15以上を示すものは，男児4.1%，女児2.2%であった。検討例中に肥満度55.7の高度肥満の男児例があった。本例は，発達は正常，総コレステロールと中性脂肪およびβ-リポ蛋白はやや高値，HDL-コレステロールはやや低値で，アポリポ蛋白ではA₁低く，Bが高かった。

見出し語：高度肥満，アポリポ蛋白，肥満度分布

【対象および方法】

福岡市中央区在住の3歳児のうち，平成元年4月から同年11月までに福岡市中央保健所に3歳児健診のため来所した3歳0カ月から同1カ月の男児319例，女児318例の各種計測値のうち，身長，体重を抜き出し，その統計学的処理とともに，肥満度，カウプ指数，ローレル指数を村田教授監修の「健康カード」を用いて算出した。

なお，今回の健診例中に高度肥満の男児例を認めためたため，その臨床検査をおこなった。

【結果】

身長は，男児 93.93 ± 3.18 ，女児 92.89 ± 3.24 cm，

体重は，男児 14.04 ± 1.51 ，女児 13.61 ± 1.35 kg，肥満度は（100を加えて）男児 100.61 ± 7.41 ，女児 99.89 ± 6.61 ，カウプ指数は男児 15.89 ± 1.16 ，女児 15.74 ± 1.03 ，ローレル指数は男児 169.31 ± 12.98 ，女児 169.66 ± 12.53 であった。また，肥満度の95パーセントイル値は，男児11.5，女児10.9，98パーセントイル値は，男児15.9，女児14.3であった。

肥満度15をこえる症例は男児4.1%，女児2.2%である。

身長，体重，肥満度，カウプ指数，ローレル指数の分布を，図1，2，3，4，5に示した。

福岡市立こども病院

Fukuoka Children's Hospital

〈高度肥満の男児例〉

(発育歴) 第1子, 在胎40週, 生下時体重 3,660g, 身長57.1cm, 頭囲34.0cm, 胸囲35.0cm。
 頸坐完了3カ月, 独り歩き11カ月。

図6のように生後1歳半より肥満傾向が著明になり, 3歳0カ月時には, 身長 104.3cm, 体重 26.3kg, 肥満度55.7。

〈検査所見〉

骨年齢 4歳。

頭部単純レ線像にてトルコ鞍前上方に淡い石灰化像が疑われたが, 頭部CTにて頭蓋内異常石灰化は否定された。

末梢血, 検尿正常。血圧 116/82mmHg (マンシエット幅7cm), 108/74mmHg (同9cm) GOT, GPT正常。

総コレステロール 218mg/l, 中性脂肪101, β -リポ蛋白 630, HDL-C43, アポリポ蛋白A₁ 119.8, B78.6, B/A₁ 比0.66。

【考 察】

3歳児の身長, 体重, 肥満度, カウプ指数, ローレル指数はほぼ正規分布を呈する。肥満度15は, ほぼ95パーセントイル値に相当すると考えられる。

なお, 現在の小・中学生にみられる肥満児がそれぞれの3歳児当時における肥満程度を検討するために, 5年前および10年前の3歳児の体位も検討中である。

今回の検討例中に, 肥満度55.7の高度肥満の男児1例を経験した。単純肥満と考えられるが, 3歳の現在, すでに, 血清コレステロール, 中性脂肪, β -リポ蛋白の上昇傾向, HDLコレステロールの低下と, アポリポ蛋白B/A₁比の上昇を認める。食事, 運動指導中である。

図1 身長分布

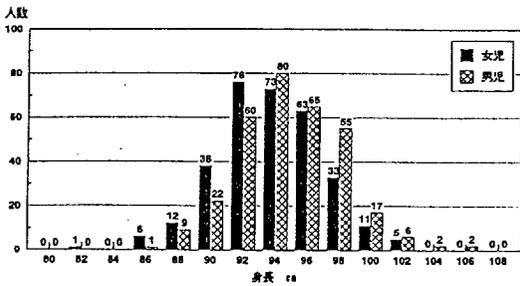


図2 体重分布

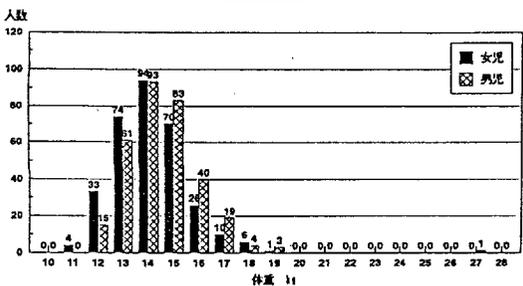


図3 カウプ指数

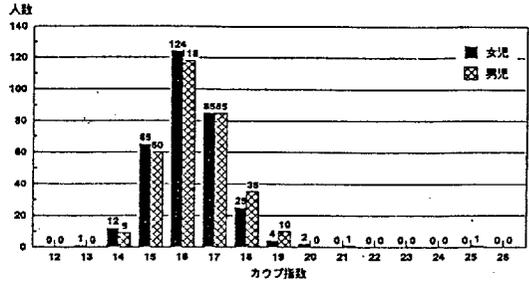


図4 ローレル指数

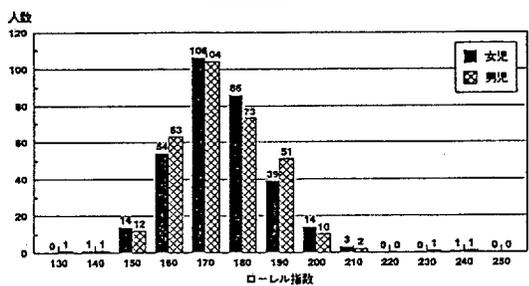


图 5

肥満度分布

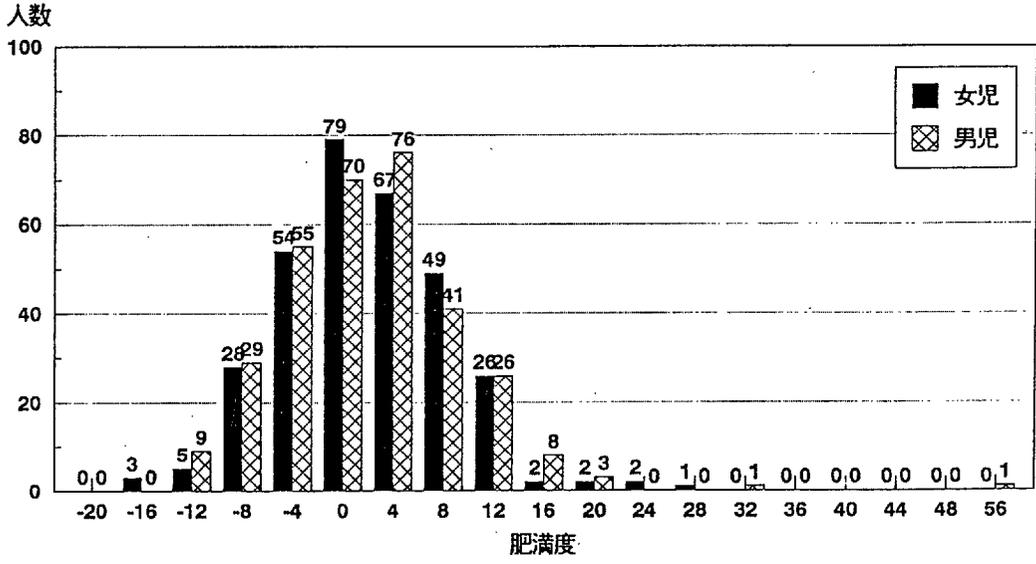
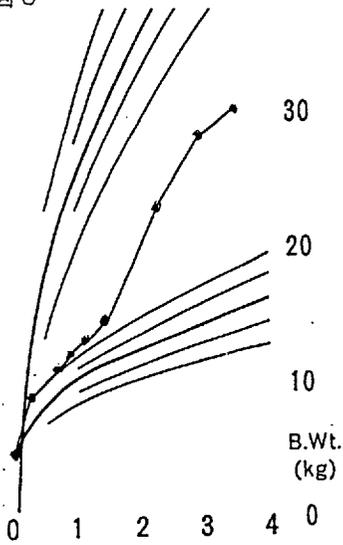


图 6





検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約：福岡市中央区在住の3歳0ヵ月から同1ヵ月までの男児319例、女児318例の身長、体重、肥満度、カウプ指数、ローレル指数を算定した。肥満度15以上を示すものは、男児4.1%、女児2.2%であった。検討例中に肥満度55.7の高度肥満の男児例があった。本例は、発達は正常、総コレステロールと中性脂肪およびトリポ蛋白はやや高値、HDLコレステロールはやや低値で、アポリポ蛋白ではA1低く、Bが高かった。